

【 専門分野 看護の統合と実践 】

科目	単位	時間数・講義回数	学年・時期	講師名	
看護管理と医療安全	1	30 時間 (15 回) ① 20 時間 (10 回) ② 10 時間 (5 回)	3 年次・前期	① 江籠 カエコ ② 木下 博子	
実践的教育内容	急性期総合病院で 20 年以上の勤務経験があり、現在看護部の副看護部長として看護管理と医療安全に従事している看護師により、病院組織と経営運営・看護におけるマネジメントの実際を教授する。 また、医療安全の実際について具体的に教授する。				
学習目標	1. 看護とマネジメントについて理解できる 2. ケアのマネジメントが理解できる 3. 看護サービスのマネジメントが理解できる 4. チームの一員としての自覚と責任について理解できる 5. 安全な看護を提供するための知識・判断力・倫理観を養う				
D P と の 関 連	■1) 多様な文化・価値観を持った人々を、生活を営む存在として幅広く捉えるための、多くの知識が身についている。 <input type="checkbox"/> 2) 看護専門職としての役割を果たすための、コミュニケーション力が身についている。 ■3) 自己を客観的に見つめることができ、看護師としての倫理的判断に基づいた看護が実践できる。 <input type="checkbox"/> 4) 健康障害があるなしにかかわらず、その人の持てる力に応じた看護が実践できる。 ■5) 身につけた知識を活用し得られた情報を科学的・論理的に分析しあらゆる人の健康に関する課題を明確にし、看護が実践できる。 ■6) 健康・医療・福祉の総合的な視野を持ち、チーム医療の一員として対象や多職種との連携・協働において、すべての人々の健康の保持・増進・予防を考慮した看護が実践できる。 ■7) 専門職業人としての自覚を持ち、看護の発展のために生涯学習し続けることができる。				
回数	学習内容	学習方法	回数	学習内容	学習方法
1 回 (江籠)	1. 人々の生活と看護	講義	10 回 (江籠)	3. 看護と専門機関・ 職能団体	講義
2 回 (江籠)	2. 看護管理過程	講義	11 回 (木下)	4. 保健医療福祉政策の動向	講義
3 回 (江籠)	1. 看護サービスの組織化	講義	12 回 (木下)	1. 医療安全と看護の責務	講義
4 回 (江籠)	2. ケアの改革	講義		2. 医療安全施策と医療の質 の評価	講義
5 回 (江籠)	3. 患者の権利擁護と 看護倫理	講義		1. 事故発生のメカニズム	講義
6 回 (江籠)	4. 安全管理体制	講義		2. 事故分析、事故対策	講義
7 回 (江籠)	5. 看護実践の評価と改善	講義	13 回 (木下)	3. 組織としての取り組み	講義
8 回 (江籠)	6. 看護研究と実践への応用	講義	14 回 (木下)	4. 事故の原因分析と対策	講義
9 回 (江籠)	1. 人間関係を構築する技術	講義	15 回 (木下)	5. 患者、家族との協働	講義
	2. 組織の効率性を高める 技術	講義		1. 看護業務と事故発生要因	講義
	1. 組織の理解	講義		2. 医療事故の種類と 安全対策	講義
	2. 看護部門の組織	講義		3. 医療事故後の対応	講義
	3. 経営とは	講義		4. 看護業務上の危険と 防止策 終講試験	講義・ 試験
	1. 看護教育体系	講義			
	2. 看護職論	講義			
	3. 看護専門識者と生涯教育	講義			
	1. 看護と法令	講義			
	2. 看護と行政組織	講義			
評価 方法	筆記試験 100 点 (① 70 点 ② 30 点)		教科書	ナーシンググラフィカ ①看護管理 ② 医療安全 (メディカ出版)	

【 専門分野 看護の統合と実践 】

科目	単位	時間数・講義回数	学年・時期	講師名	
災害と国際看護学	1	30 時間 (15 回)	3 年次・前期	藤原 裕	
実践的教育内容	強制期の病院で 21 年の勤務経験があり、その間、DMAT (災害派遣医療チーム) に所属し災害看護師として国内・国外で 12 年活動している看護師により、災害及び国際看護の実体験から学んだことを教授する。				
学習目標	1. 災害の種類と特徴が理解できる 2. 災害看護の定義と特徴が理解できる 3. 災害の対応や対策が理解できる 4. 国際化と看護について理解できる 5. 国際援助や支援のあり方について理解できる				
D P と の 関 連	■1) 多様な文化・価値観を持った人々を、生活を営む存在として幅広く捉えるための、多くの知識が身についている。 <input type="checkbox"/> 2) 看護専門職としての役割を果たすための、コミュニケーション力が身についている。 ■3) 自己を客観的に見つめることができ、看護師としての倫理的判断に基づいた看護が実践できる。 <input type="checkbox"/> 4) 健康障害があるなしにかかわらず、その人の持てる力に応じた看護が実践できる。 ■5) 身につけた知識を活用し得られた情報を科学的・論理的に分析しあらゆる人の健康に関する課題を明確にし、看護が実践できる。 ■6) 健康・医療・福祉の総合的な視野を持ち、チーム医療の一員として対象や多職種との連携・協働において、すべての人々の健康の保持・増進・予防を考慮した看護が実践できる。 ■7) 専門職業人としての自覚を持ち、看護の発展のために生涯学習し続けることができる。				
回数	学習内容	学習方法	回数	学習内容	学習方法
1 回	1. 災害看護の定義	講義		3) 継続治療が必要な人	
2 回	2. 災害と倫理			4) 外国人	
	1. 災害の種類と災害サイクル	講義	9 回	5) 遺族	講義
	1) 災害関連死		10 回	1. 被災者、支援者の心理の理解と援助	講義
	2) 災害サイクル			1. 災害初期から中長期における看護活動	
3 回	1. 災害医療に関する国の施策	講義		1) 医療救護所、避難所、応急仮設住宅、自宅避難者、復興後	講義
4 回	1) 防災計画と医療計画	講義	11 回	1. 災害時に必要な医療・看護技術	
	2. 災害医療に関する法律			1) トリアージ、応急処置	
	1) 災害時の医療体制		12 回	2) 移送、搬送	講義
	2) 被災者支援体制	講義		3) 災害教育	
5 回	1. 災害に備えた事業継続計画			1. 国際看護とは	
	2. 災害時の組織体制			2. 日本における国際看護	
	3. 連携と協働			施設見学	
6 回	4. 健康危機管理	講義	13 回	「地震および防火訓練」	施設見学
7 回	1. 支援を必要とする配慮者	講義	14 回	まとめ	講義・試験
8 回	1) 乳幼児、子ども、妊産婦	講義	15 回	終講試験	
	2) 高齢者、障害者				
評価方法	筆記試験 100 点		教科書	ナーシンググラフィカ 災害看護 (メディカ出版)	

【 専門分野 看護の統合と実践 】

科目	単位	時間数・講義回数	学年・時期	講師名	
卒業研究	1	30 時間 (15 回)	3 年次・後期	専任教員	
実践的教育内容	専任教員全員がそれぞれ学生を担当し、実習で実際に看護を提供した内容を看護教育のまとめとして論文にまとめられるように教授する。 発表を通じて、それぞれの看護観に触れることで共有学習ができるよう研究的態度についても教授する。				
学習目標	1. 研究の意義が理解できる 2. 論文作成の方法や論理的な思考力を養うことの意味を理解できる 3. 卒業時の自己の看護に関する考え方をまとめることができる 4. 論文作成から発表の流れを理解することができる				
D P と の 関 連	■1)多様な文化・価値観を持った人々を、生活を営む存在として幅広く捉えるための、多くの知識が身についている。 ■2)看護専門職としての役割を果たすための、コミュニケーション力が身についている。 ■3)自己を客観的に見つめることができ、看護師としての倫理的判断に基づいた看護が実践できる。 ■4)健康障害があるなしにかかわらず、その人の持てる力に応じた看護が実践できる。 ■5)身につけた知識を活用し得られた情報を科学的・論理的に分析しあらゆる人の健康に関する課題を明確にし、看護が実践できる。 ■6)健康・医療・福祉の総合的な視野を持ち、チーム医療の一員として対象や多職種との連携・協働において、すべての人々の健康の保持・増進・予防を考慮した看護が実践できる。 ■7)専門職業人としての自覚を持ち、看護の発展のために生涯学習し続けることができる。				
回数	学習内容	学習方法	回数	学習内容	学習方法
1 回	1. 研究とは	講義	12 回	1. 看護学会とは	講義
	2. ケーススタディとは			2. 看護学会の様子	
	3. 研究が看護にもたらす意味			3. 発表のスタイル	
2 回	1. 研究計画書の書き方	講義	13 回	1. 発表分科会	講義
	2. 文献とその活用法		14 回	2. 役割遂行	講義
	3. 今後の計画について				
3 回	1. 研究計画書作成	講義	15 回	ポスターセッションとは	講義
	2. 論文のまとめ方			レポート評価説明	
	1) 論文の構成要素				
	2) 基本ルール				
4 回	1. テーマの絞り方	講義			
	2. 文献の活用の仕方				
	3. 論文の指導の受け方				
5 回	1. 論文作成	演習			
6 回	2. 指導・修正	演習			
7 回	3. 指導を受ける姿勢や態度	演習			
8 回		演習			
9 回		演習			
10 回		演習			
11 回		演習			
評価方法	レポート評価 100 点		教科書	看護のためのわかりやすい ケーススタディの進め方 (照林社)	

【 専門分野 看護の統合と実践 】

科目	単位	時間数・講義回数	学年・時期	講師名	
総合看護技術論	1	30 時間 (15 回)	3 年次・後期	中畑 千恵	
実践的教育内容	教務主任が、看護の統合と実践実習での学習が円滑に実施できるように多重課題における状況判断、優先順位、時間管理の在り方について、ビデオ学習や、ペーパーペイシエントを用いて具体的に教授する。				
学習目標	1. 看護実践に必要なアセスメントを行い、状況に応じた看護技術について学ぶ 2. 複数患者の看護実践において優先順位を判断し、適切な行動を考えることができる 3. 既習の知識・技術・態度を統合し、看護実践ができる能力を養う				
D P と の 関 連	■1) 多様な文化・価値観を持った人々を、生活を営む存在として幅広く捉えるための、多くの知識が身についている。 ■2) 看護専門職としての役割を果たすための、コミュニケーション力が身についている。 ■3) 自己を客観的に見つめることができ、看護師としての倫理的判断に基づいた看護が実践できる。 ■4) 健康障害があるなしにかかわらず、その人の持てる力に応じた看護が実践できる。 ■5) 身につけた知識を活用し得られた情報を科学的・論理的に分析しあらゆる人の健康に関する課題を明確にし、看護が実践できる。 ■6) 健康・医療・福祉の総合的な視野を持ち、チーム医療の一員として対象や多職種との連携・協働において、すべての人々の健康の保持・増進・予防を考慮した看護が実践できる。 ■7) 専門職業人としての自覚を持ち、看護の発展のために生涯学習し続けることができる。				
回数	学習内容	学習方法	回数	学習内容	学習方法
1 回	1. チームでの連携と協働 1) 看護のマネジメント 2) 報告、連絡、相談、調整 3) チームの一員としての自覚と責	講義	7 回 8 回	4) 発表・検討 まとめ 看護技術の実践に向けて説明	GW・演習 GW・演習
2 回	2. 看護業務、チームの構成 仕事の組み立て方	講義・GW	9 回 10 回	1. 社会人基礎力について 2. 多様な人々と関わって 仕事をするための能力 「臨床実践能力」と「社会人基礎力」の関係	講義 講義
3 回	3. 優先順位とは 1) 患者の理解 2) 必要な看護援助の理解 3) 複数事例における優先順位の理解	講義・GW	11 回 12 回 13 回 14 回 15 回	1. 看護技術の実践 1) 援助計画 2) ペアリング 3) 実践 4) 評価修正 5) まとめ 6) レポート評価説明	演習 演習 演習 演習 演習
4 回	4. 複数事例を受け持つ時の考え方 1) 行動計画立案 2) 優先順位の考え方 3) 時間管理について 4) 倫理的配慮について	講義			
5 回 6 回	5. 複数事例を受け持つとは 1) 事例で考える 2) 根拠を考える 3) 看護計画を考える	演習 演習			
評価方法	レポート評価 100 点	教科書		講師からの資料	